

# 基礎看護技術演習にかかわった10人の 教員への学生評価からの指導評価

—看護学生の自由記載法による全身清拭技術演習の指導内容評価への質的分析から—

元呉大学看護学部

津 田 右 子

元呉大学看護学部研究科修士課程

西澤三代子, 柴田 京子

呉大学看護学部非常勤講師

武 井 功 子

呉大学看護学部

入江寿美代, 平岡 正史, 古屋敷明美

**論文要旨** 基礎看護学の援助方法論において、基礎看護技術の演習指導を10名の教員が行った。学生は、教員の指導についてどのように考えているのか知りたいということで、学生による授業評価を行った。

今回の研究では、A大学看護学部の2年生110名を対象として、全身清拭の技術演習という授業に、10人の指導教員が指導するという機会を得た。そこで、このような指導教員の指導について、学生はどのように評価しているのかということを、無記名自由記載法で質問紙調査を行って、質的分析により、文脈上でコード化を行い、サブカテゴリー化し、コアカテゴリーを抽出した。

学生の教員指導で良かった事が8割、困ったことが2割であった。

学生の評価を集約した良かった事のコアカテゴリーによれば、学生は、指導教員10人に対する技術演習指導を「理解が深まる指導」「学習の喜びや意欲がわく指導」「教員へ安心感」という肯定的な評価をしていた。

しかし、一方では「それぞれの先生で言う事が違う」「先生によって違うので混乱する」「先生同士の意見を統一してほしい」「細かい所まで指導してほしい」という評価があった。10人という多人数の指導教員の指導内容の統一が不十分であることが評価された。

**キーワード：**看護技術演習、10人の指導教員、指導評価、自由記載法、質的分析

## ■ はじめに

現在の看護教育において、授業評価の重要性が問われている。基礎看護学の援助方法論において、基礎看護技術の演習指導を10名の教員が行った。このような指導を受けている学生は、教員の指導についてどのように考えているのかと授業評価を行いたいと考えた。

今回の研究では、A大学看護学部の2年生110名を対象として、全身清拭の技術演習という授業に、10人の指導教員が指導するという機会を得た。

そこで、このような多人数の指導教員の指導について、学生はどのように評価しているのかということを、自由記載法で質問紙調査を行って、質的分析により、文脈上でコード化を行い、カテゴリー化し、コアカテゴリーを抽出した。

学生の評価を集約したコアカテゴリーによれば、学生は、指導教員10人に対する技術演習指導を「理解が深まる指導」「学習の喜びや意欲がわく指導」「教員へ安心感」という肯定的な評価をしていた。しかし、一方では「それぞれの先生で言う事が違う」「先生によって違うので混乱する」

つだ ゆうこ

〒399-0033 長野県松本市笹賀3118 松本短期大学

「先生同士の意見を統一してほしい」という評価があった。これらから、今回の技術演習の教員たちの指導の傾向を知ることができた。

そこで、このような学生評価を分析及び検討したことをここに報告し、今後の技術演習指導に生かしていきたい。

## ■ 研究目的

全身清拭演習の授業をうけた看護学生から指導教員へ無記名自由記載法による指導内容評価を質的分析することで、教員の指導の傾向を明らかにし、今後の技術演習への指針と得る。

## ■ 研究方法

1. 研究対象 A看護大学看護学部2年生 自由意志で協力をえられた82人

2. 指導教員10人の背景 基礎看護学担当教員4人、非常勤講師1人、ティーチングアシスタント（看護修士課程の院生）5人

3. 指導形態 学生14～15グループ（学生4～5人で1グループ）を指導教員10人で担当する。1人の教員が、2グループを担当する。ティーチングアシスタントは1グループを担当する。

### 4. 研究方法

① 無記名自記式アンケート調査法：自由記載法によるアンケート調査を行ない演習直後に回収した。「今回の演習（全身清拭）で、教員の指導方法についてあなたはどのようなことを感じたり、考えたりしましたか。ご要望・ご意見をお書きください。」という半構成的質問を行い、無記名自由記載法で100字程度にまとめて提出するように依頼した。

② アンケートの回収結果について：全身清拭の演習時間は2回あった。2回を通して、学生の延出席人数は208人で、アンケート提出人数は82人であった。回収率は1回目59%、2回目17.3%であった。

③ 分析法：記載された文章を文脈上でコード化し、カテゴリー化を行い、コアカテゴリーを抽出し、質的内容分析を行う。その結果を考察する。

5. 倫理的配慮 本アンケートは、指導教員の今後の教育に生かすために実施するものである。アンケートに答えるかどうかは学生の自由意志

であり無記名である。協力の有無が成績に関与しない。ということを書き化した用紙を全員の配布し、了解の得られた学生について研究データとした。

6. 研究期間 2005年7月から2006年7月

## ■ 技術演習の展開

### 1. 全身清拭演習の指導目標

- ① 適度の湯の温度を用意し、清拭実施中はその温度を保つよう指導する。
- ② 皮膚の露出を必要最小の範囲と時間にする
- ③ 皮膚のマッサージ効果（皮膚を圧迫するように拭いて、血管や筋組織を刺激する）を狙って清拭する。
- ④ 学生が全身清拭の技術で安全、安楽の根拠を理解しながら実施できる。
- ⑤ 既習の学習を統合しながら、全身清拭の技術を実施することへの学生の認識を深める。
- ⑥ 学生は教員がデモンストレーションをすることで、事例対象への全身清拭の援助方法を理解し、自分の看護技術を安全、安楽に行うことができる。

### 2. 学修目標

事例対象は「発汗の多い臥床患者」とし、清拭の方法は石鹸清拭とする。

- ① 安全でかつ効果的に清拭を実施し、皮膚を清潔に保つことができる。
- ② 安全でプライバシーの保護ができる環境を整え、爽快感を与えることができる。

### 3. 学生と教員の配置

200X年7月X日

時間	内容	備考
11:45～12:30 (45分)	教員による全身清拭のデモンストレーション	教員：看護師役2名、患者役1名、ナレーション1名
15:00～16:30 (90分)	学生4人の14グループに指導教員10名が配置される。教員1名は1～2グループを担当する。(1～14G)	演習時の学生の役割：患者役1名、看護師役2名、観察者1名
16:40～18:10 (90分)	学生4人の15グループに指導教員10名が配置される。教員1名は1～2グループを担当する。(15～29G)	演習時の学生の役割：患者役1名、看護師役2名、観察者1名

#### 4. 教員間の演習の事前打ち合わせ内容

演習前日の14時から17時まで、演習の目的と内容を協議し、デモンストレーションを実際に行い、教員相互に指導のポイントを確認した。

### ■ 結 果

アンケート内容分類について：指導内容に関するものが37人、演習時間に関するもの11人、教員配置について16人、教員の演習計画と準備5人、教員のデモンストレーションについて4人、実習室の使用について1人、記録用紙について1人、その他1人であった。

これらの中から「指導内容について」を記述した37人を取り上げて、質的内容分析を行った。

#### 1. 指導内容の質的分析結果について：全体からみた傾向

全コード数は76個であった。そのうち、良かった事のコード数は58個（76.3%）、困った事のコード数は18個（23.7%）であった。（図1「全体からみた傾向」参照）

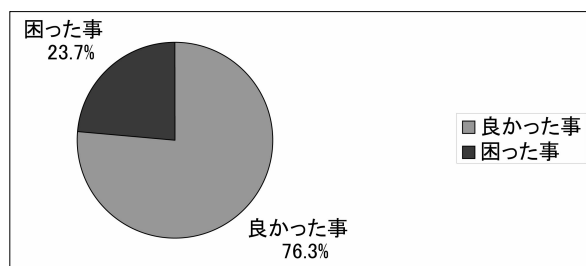


図1 全体からみた傾向

#### 2. 指導内容の質的分析結果について：指導内容：よかった事

##### ① コードとサブカテゴリーについて

全コードは58個となり、サブカテゴリーは18個にまとまった。（表1「指導内容に関するもの：良かったこと」参照）。コード数の一番多いサブカテゴリーから順に記述する。サブカテゴリー1は「わかりやすかった」で、コード17個（29.3%）、サブカテゴリー2は「演習直前に復習し、課題や目標をもつ」でコード7個（12.0%）、サブカテゴリー3は「質問・クイズを出された」コード5個（8.6%）、サブカテゴリー4は「今回はすごくよかった」コード5個（8.6%）、サブカテゴリー5は、援助方法と根拠を一緒に教えるコード4個（6.9%）、サブカテゴリー6「質問にくわしく答

えてくれた」コード3（5.2%）、サブカテゴリー7「細かい指示で非常に勉強になった」コード3（5.2%）、サブカテゴリー8「楽しい演習になった」コード3個（5.2%）、サブカテゴリー9「教員が実際に学生へも清拭したのでイメージがついた」コード2（3.4%）、サブカテゴリー10「羞恥心に配慮しきちんとしないといけない」コード1個（3.4%）、サブカテゴリー11「ゆっくりじっくりみてもらえて嬉しかった」コード1個（1.7%）、サブカテゴリー12「すぐにたすけてくれるから安心」コード1個（1.7%）、サブカテゴリー13「細かいところまで学べた」コード1個（1.7%）、サブカテゴリー14「理解しながら実習できた」コード1個（1.7%）。サブカテゴリー15「わからないことも一緒に考えた」コード1個（1.7%）、サブカテゴリー16「いろいろアドバイスをくれた」コード1個（1.7%）、サブカテゴリー17「看護師役と患者役の意見を平等に聞いてくれた」コード1個（1.7%）、サブカテゴリー18「適切な実習だった」コード1個（1.7%）、という結果であった。

##### ② サブカテゴリーとコアカテゴリーについて

サブカテゴリーは18個であり、コアカテゴリーは3個にまとまった（表2「コアカテゴリー：良かった事」参照）。サブカテゴリー数の多いコアカテゴリーから順に記述する。コアカテゴリー1「学生の理解が深まる指導」サブカテゴリー数11個（61.1%）、コアカテゴリー2「学生の学習の喜びや意欲がわく指導」サブカテゴリー数5個（27.8%）、コアカテゴリー3「教員が存在する事への学生の安心感」サブカテゴリー数2個（11.1%）という結果であった。（図2「指導内容：良かった事」参照）

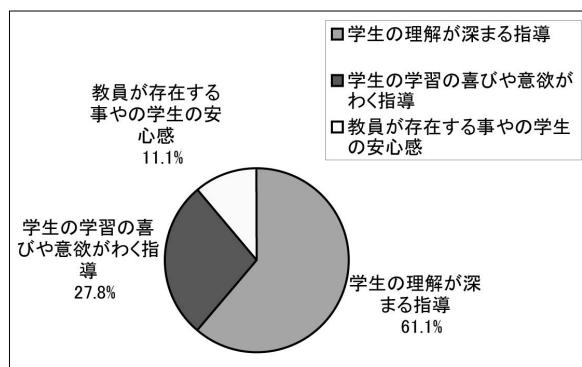


図2 指導内容：良かった事

基礎看護技術演習にかかわった10人の教員への学生からの指導評価  
—看護学生の自由記載法による全身清拭技術演習の指導内容評価への質的分析から—

表1 指導内容：良かった事

No	サブカテゴリー	コード化	コードNo
1	わかりやすかった	1) 丁寧に教えている	1
		2) 丁寧な指導は自分のためになった。	2
		3) 全員の先生が丁寧で分かりやすい	3
		4) 質問しやすい雰囲気	4
		5) 説明がわかりやすい	5
		6) 気になっていたことを説明してもらう	6
		7) 豆知識であっても気づかされたり、納得した	7
		8) 詳しく教えてくれたので分かりやすかった	8
		9) 最初と最後にミーティング	9
		10) 指導がわかりやすい	10
		11) 患者はこうしたら気持ちよいなど納得することがたくさんあった	11
		12) 初めてのことでばかりで分かりやすく納得した	12
		13) こまかく指導してもらえらるので分かりやすい	13
		14) 教え方がうまい	14
		15) 状況から考えられることを教えてくれた	15
		16) 表現の仕方が分かりやすかった	16
		17) 深いところまで考えて行なう事が大切	17
2	演習直前の復習し、課題や目標をもつ	1) 演習前の目的の確認	18
		2) 先生と清拭の意義と目的をしっかりと確認して、その事を心にとめてできた	19
		3) 実習する前に目標を持つと良い	20
		4) 具体的にどうすればよいか皆で話し合い前回で出来なかったことができた	21
		5) 課題が明確で集中できた	22
		6) 集中できた	23
		7) はじめにグループで課題を決めて課題が明確でよかった	24
3	質問・クイズをだされた	1) 人体機能	25
		2) 質問・クイズ	26
		3) 自分がわかっていないのが分かった	27
		4) 問題をだされながら演習した	28
		5) 清拭の目的と意義を尋ねられたことで、自分で考え受身から自主的な実習に変化した	29
4	今回はすごくよかった	1) 今回はすごくよかった	30
		2) 今日はスムーズにできた	31
		3) 今回の演習はとてもわかりやすかった	32
		4) 今日は楽しくできた	33
		5) 今回の演習は、指導に現実味があって分かりやすかった	34
5	援助方法と根拠と一緒に教える	1) なぜそうするのか教えてもらい分かりやすい	35
		2) なぜそうするのか納得できた	36
		3) 行為の意味	37
		4) なぜこの動作が必要か根拠をおしえてもらった	38
6	質問に詳しく答えてくれた	1) 質問に詳しく答えてくれた	39
		2) 質問に一つ一つ答えてくれた	40
		3) 質問してもポイント押さえて教えてもらえた	41
7	細かい指示で非常に勉強になった	1) 非常に勉強になった	42
		2) 細かく指示してくれた	43
		3) デモとは違う方法を教えてもらえた	44
8	楽しい演習になった	1) 実習する前に目標を持つと良い	45
		2) 全身清拭プラス1日の垢の量などアトピー肌など教えてくれた	46
		3) 楽しく意味のある授業だった	47
9	実際に学生へも清拭したのでイメージがついた	1) 自分にも清拭してくれてイメージがついた	48
		2) 拭く力の強さを実際に私の腕を拭いて教えてくれたので感覚がつかめた	49
10	羞恥心に配慮しきちんとしないといけない	1) 羞恥心を配慮しながら、爽快感や清拭効果を得るためにきちんとしないといけない	50
11	ゆっくりじっくりみてもらえて嬉しかった	1) ゆっくりじっくりみてもらえて嬉しかった	51
12	すぐに助けてくれるから安心	1) すぐに助けてくれるから安心	52
13	細かいところまで学べた	1) 細かいところまで学べた	53
14	理解しながら実習できた	1) 理解しながら実習できた	54
15	わからないことも一緒に考えた	1) わからないことも一緒に考えた	55
16	いろいろアドバイスをしてくれた	1) いろいろアドバイスをしてくれた	56
17	看護師役と患者役の意見を平等に聞いてくれた。	1) 看護師役と患者役の意見を平等に聞いてくれた	57
18	適切な指導だった	1) 適切な指導だった	58
サブカテゴリー数=18個		コード数=58個	

表2 コアカテゴリー：良かった事

No	コアカテゴリー	サブカテゴリーNo	No	サブカテゴリー
1	学生の理解が深まる指導	1.2.3.5.6.7.9. 10.13.14.18	1	わかりやすかった
			2	グループで演習直前に復習し、課題や目標を明確に持つ
			3	質問、クイズをだす 今回はすごくよかった
			4	
			5	援助方法と根拠を一緒に考える
			6	質問に詳しく答えてくれた
			7	細かい指示で非常に勉強になった
			8	楽しい演習になった
			9	実際に教員が学生に清拭したのでイメージがついた
			10	羞恥心に配慮し、きちんとしないとけない
2	学生の学習の喜びや意欲がわく指導	4.8.11.16.17	11	ゆっくりじっくりみてもらえて嬉しかった
			12	すぐに助けてもらえるから安心
			13	細かいところまで学べた
			14	理解しながら演習できた
			15	わからないことも一緒に考えてくれた
			16	いろいろアドバイスをしてくれた
			17	看護師役と患者役の意見を平等に聞いてくれた。
			18	適切な指導だった
3	教員が存在する事への学生の安心感	12.15		

3. 指導内容の質的分析結果について：指導に関して困った事について

① コードとサブカテゴリーについて

全コードは18個であり、サブカテゴリーは6個であった（表3「指導内容に関するもの：困ったこと」参照）。コード数の一番多いサブカテゴリーから順に記述する。サブカテゴリー1「それぞれの先生で言うことが違う」コード数6個（33.3%）、サブカテゴリー2「先生によって違うので混乱する」コード数4個（22.2%）、サブカテゴリー3「先生同士の意見を統一して欲しい」コード数4（22.2%）、サブカテゴリー4「どの先生の指導を信じてよいかわからない」コード数2個（11.1%）、サブカテゴリー5「先生によって言うことが違い、戸惑って演習時間が長引く」コード数1個（5.5%）、サブカテゴリー6「細かい所をみても

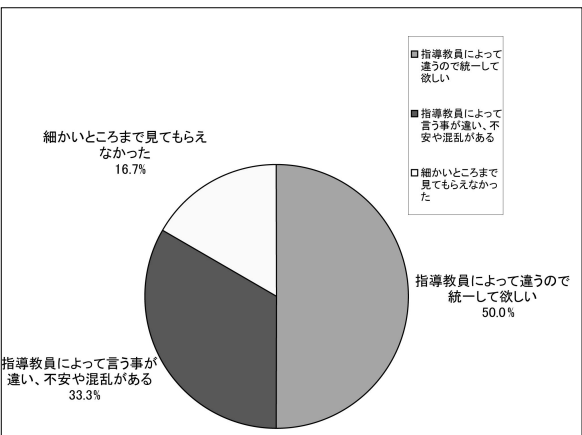


図3 指導内容：困った事

らえなかった」コード数1個（5.5%）、という結果であった。

表3 指導内容：困ったこと

No	サブカテゴリー	コード化	コードNo
1	それぞれの先生で言うことが違う	それぞれの先生で細かいことが違う	1
		他の先生と言う事が違う。まとまって欲しい	2
		先生同士のやり方が違うの困惑する	3
		先生によって指導方法が違ったり、連絡が行き届いていない	4
		先生同士でいうことが違って困った	5
		デモにいなかった先生はデモと違っていた	6
2	先生によって違うので混乱する	先生によって、ベッドメイキングの方法が違うので混乱する	7
		先生によって技術の使い方が違うので戸惑います。	8
		先生同士の意見の食い違いがありどちらが正しいのかわからない	9
		庵法の際は、集合してやり方を教えてもらうときに、先生によってやり方が違ったり、とまどうこともある	10
3	先生同士の意見を統一してほしい	先生同士の意見を同じにして欲しい	11
		人間でなく人形でやったグループがあるので、統一してほしい。	12
		先生によって説明のしかたが違うので、統一してほしい。	13
		先生によって持っている考え方が異なり、指導する側としていいのかと疑問がある	14
4	どの先生の指導を信じてよいかわ不安	どれを信じてよいかわからないので不安	15
		先生によって指導の内容が異なるので、どれを信じて試験に望めばよいのか、いささか不安	16
5	先生によって言うことが違い、戸惑って演習時間が長引く	先生によって言う事が違い、とまどうので演習時間がかかる	17
6	細かいところを見てももらえなかった。	完璧に全身清拭ができるとはいき切れない。実習でできるのか心配。	18
コアカテゴリー数＝6個		コード数＝18個	

表4 コアカテゴリー：困った事

No	コアカテゴリー	サブカテゴリーNo	No	サブカテゴリー
1	指導教員によって違うので、混乱するので統一してほしい	3.4.5	1	それぞれの先生で言うことが違う
			2	どの先生の指導を信じてよいかわ不安
			3	先生によって違うので混乱する
2	指導教員によって、言うことが違い、不安や混乱がある。	1.2	4	先生同士の意見を統一してほしい
			5	先生によって言うことが違い、戸惑って演習時間が長引く
3	細かいことまでみてもらえなかった	6	6	細かいところを見てももらえなかった。

## ② サブカテゴリーとコアカテゴリーについて

サブカテゴリーは6個であり、コアカテゴリーは3個にまとまった。(表4「コアカテゴリー：困った事」参照) サブカテゴリー数の多いコアカテゴリーから順に記述する。コアカテゴリー1「指導教員によって違うので、混乱するから統一して欲しい。」サブカテゴリー数3個(50.0%)、コアカテゴリー2「指導教員によって、言うことが違い、不安や混乱がある。」サブカテゴリー数2個(33.3%)、コアカテゴリー3「細かいところまでみてもらえなかった」サブカテゴリー数1個(16.7%)、という結果であった。(図3「指導内容：困った事」参照)

## ■ 考 察

考察は1. 全体的傾向、2. 良かったこと(3つのコアカテゴリーから) 3. 困ったこと(3つのコアカテゴリー)の3つの視点から行なう。

### 1. 全体的傾向から

学生の教員の指導について、良かったことが全体の約8割弱、困ったことが約2割強となっている。これは、学生が教員の指導について評価をしているが、同時に教員への不満もあるということになる。しかし、8割が良かったこととして支持が得られたことは、学生の教員の指導が評価されたとして受け止められる。

### 2. 良かったことについて

#### 1) 「学生の理解が深まる指導」

全身清拭の技術演習は、学生が看護師役と患者役になってすすめる体験学習である。藤岡が「体験学習では、自らのからだや心、知能や感覚など自分のすべてを駆使して学習することで、“知る、わかる”レベルから“実感できる、実際に感じて理解できる”レベルに到達できます<sup>1)</sup>」としている。学生達が自分達の理解が深まると回答していることは、体験学習の指導効果があったといえる。

サブカテゴリーをみると、「わかりやすかった」「適切な指導だった」というような抽象的な回答もあるが、「質問やクイズを出している」や「根拠を学生と一緒に考えるという」具体的な指導を支持している。看護技術における科学的根拠(EBN)が重要であるが、技術演習で、そのこと

に学生は気づいて教員の指導を受け止めている。

また、教員側からみれば、学生が科学的根拠の重要性に気づくというこのような指導は、ウィーデンバックが臨床実習指導において述べているように「学生がどう考え、どのように役割を果たしているかを教師が知るには、学生と密接に接触をもち、設定された自己表現の手段に対する学生の反応を自分で評価しなければならない<sup>2)</sup>」ことを、忠実に教員が実践していることになる。

「学生の理解が深まる指導」は全体の61.1%を占めていることから、学生は教員の指導を受け入れて、評価していることが分る。

#### 2) 「学生の学習や喜びや意欲がわく指導」

教員の指導が、情意面にも影響を与えている。技術演習が喜びであることは、学ぶ楽しさに繋がる。そして、意欲がわくということは、教員の指導が学生の学習の動機付けを高めていくという評価である。講義では学生が教員の話の聞いているという受動的な姿勢になりやすいが、技術演習では、学生が自ら行動して、学習の成果を実践していくので、実践した時の目標達成感が学生の学習意欲を高める。杉森が演習において教員は学習者の自発性、自主性、主体性を尊重し、学習者はそれを養うことを目指すことにより主体的学習を可能にすると述べているが、今回の結果は、教員の指導が学生の主体的学習を進める指導ができたという評価になっている。

#### 3) 「教員が存在する事への学生の安心感」

「教員が重要視している技能には、学内、および看護学実習における学生集団との肯定的な関係の確立、個々の学生との肯定的関係の確立がある<sup>3)</sup>」というように、学生と教員の関係確立は、技術演習において重要なことである。教員に学生が安心感を示すということは、学生と教員の関係が確立したという評価につながる。

そして学生と教師の人間関係とは、「教師が学生に信頼を示すこと、学生を尊重すること、誠実で率直であること、学生を励まし支持することが含まれている<sup>4)</sup>」といわれる。学生が教員に安心感をもったという評価は、教員の方も、学生に信頼を示し、尊重し、励ましや支持をしているということが評価されたことになる。

### 3. 「困ったこと」について

1) 「指導教員によって違うので、混乱するので統一して欲しい」

10人の教員は、1人が学生1グループ又は2グループを担当している。1つのグループに一度に何人もの教員が関わることがないが、技術演習の時間ごとに、担当教員が異なっている場合が多い。

技術演習は前回行なった技術が積み重なって、今回の全身清拭技術に繋がっていく場合もある。例えば、体位変換の技術が全身清拭の技術に入っている場合がそうである。体位変換の技術を指導していた教員と今回の全身清拭の指導する教員が異なる場合もある。そのような時、体位変換についてなんらかの技術の指導内容が異なっていたのではないかと予測される。技術指導を統一して欲しいという希望が50%を占めていることは、学生にとって、このことが大きな問題となっていることが評価できる。教員同士の意見の食い違いがあることを記述している学生もいる。また教員同士の考え方が異なっていることに疑問を持つという評価がある。

基礎看護技術演習を実施している学生は、大学2年生という初学者であり、各指導教員がそれぞれ指導している現象について、自分自身で統合する力がまだ不十分であると考えられる。各指導教員の指導における表現方法の違いにより、実際に学生は混乱することがある。しかし、学生自身が成長していくプロセスにおいて、具象的なことを本質的なものに考えていくプロセスで多少の混乱や不安が生じるものとする。学習獲得段階の、成長過程の途中であるので、各指導教員の違いが、本質的には同じ事を指導しているというように、理解できる能力がまだ少ない。そのような指導教員の指導の違いに混乱している学生を前にした場合、教員は、指導の要旨が本質的に同じであることを学生に説明し、理解をもとめることが必要である。また、教員の指導が食い違っていたとき、学生がそれを直ぐに指導教員に正して質問などすれば、指導教員にそのことが伝わるが、そのままにしておくと、教員に伝わっていないので、修正できないまま指導していることも考えられる。

一方で、今回の技術演習前には、指導教員が技術演習の内容や指導について打ち合わせを持っているが、その打ち合わせが、不十分であることが考えられる。

また、技術演習当日の教員のデモンストレー

ションに参加できないまま、指導をした教員については、学生が不安を抱いているという評価を得た。

しかし、学生が教員の指導がそれぞれで異なり、混乱させているという評価を受け止めて、それが、実際は具体的にどのようなことなのか、学生に確かめていく必要がある。

2) 「指導教員によって、言うことが違い、不安や混乱がある。」

前述した1) 「指導教員によって違うので、混乱するので統一して欲しい」に関連する評価である。指導教員の言動がそれぞれ異なることが、学生を不安にさせているということは、精神的負担のなっていると考えられる。このことは、技術演習への興味や学習動機を軽減させる原因にもなる。

また、不安や混乱により技術演習が正確に実施されにくく、演習時間も予定より長くなり、学習効果が低くなる。

学生にとって困った事は1) 「指導教員によって違うので、混乱するので統一して欲しい」と合わせると、指導教員の意見の食い違いや指導内容が統一されていないということは、困ったことの83.3%を占めている。このことは、学生にとって大きな負担であることがわかった。

学生は基礎看護学技術演習で、初めて自分の手を使い、具体的に現実的に行動し、知識と統合しながら演習を進めていく。そのような緊張している状況で、教員が本質的には同じ指導内容でも、指導表現が違うことで、学生はそれらを統合できないで、不安を感じて、自信がもてないまま技術演習をしている様子が浮かんでくる。教員は、この結果を踏まえて、学生を混乱させて、不安を与えていることを察知して、技術演習が円滑にすすむように、学生に配慮する必要があることがわかった。

3) 「細かいところまでみてもらえなかった」

指導教員が一人で学生2グループを担当していた所もあった。そのことで、教員が不在になる時間があり、細かいところまで見てもらえなかったという評価があがった可能性がある。

また、指導教員の指導力不足で、技術の細かい部分まで指導出来なかったということも考えられる。



1人1人の学生が、技術演習を指導教員から細かくみてもらえるように、教員配置や指導のあり方の工夫が、教員に求められている。

## ■ 結 論

基礎看護技術演習における10人の指導教員への学生評価を分析し以下のように結論をえた。

1) 学生の8割は教員の指導を良かったと評価している。

2) 指導で良かったことは、学生の理解が深まる指導であったことが最も多く、学生の意欲がわくというような学習動機をたかめる指導評価や、教員がいて指導を受けられる安心感についての評価の3つのコアカテゴリーが抽出された。

3) 指導で困ったことは、教員間における指導が統一されていないこと、及びそのことから精神的に混乱や不安があることが8割を占めた。これは基礎看護学技術演習を受けている学生が2年生という初学者であり、演習時の緊張もあり、教員の指導がそれぞれが違ふと感じた時に、学生が自分自身が本質的レベルで統合する力が不十分であ

ると考えられる。そして、学生が混乱や不安を感じていることを教員は察知して、指導する必要性があるということがわかった。

また、教員の指導内容の打ち合わせが不十分であることも考えられた。細かい指導を受けられない学生がいたことから、全員に細かい指導が必要であると考ええる。

## ■ おわりに

今回10人の指導教員に対して、学生からの指導評価を得て質的分析を行なった。

指導内容に関して8割は教員の指導を理解が深まるなど良い方向に評価を得ている。2割が困ったことがあるとしている。その困ったことの内容は、8割が10人の指導教員の間で、指導の統一がなく不安であるという評価であった。初学者で成長過程である学生への各指導教員の指導内容について統合的理解ができるように指導していく重要性がわかった。また、教員間の事前打ち合わせをより一層充実していくことも今後の課題となった。

## 引用・参考文献

- 1) 藤岡完治, 野村明美編著, 「わかる授業をつくる看護教育技法3 シュミレーション・体験学習」, 医学書院, p.133, 2000
- 2) E. ウィーデンバック著, 都留伸子他訳, 「臨床実習指導の本質 看護学生援助の技術」現代社, p.59～60, 1999
- 3) MARILYN H. OERMANN, KATHLEEN B. GABERSON 著, 舟島なおみ監訳, 「看護学教育における講義・演習・実習の評価」医学書院, p.286, 2005
- 4) 前掲書3) p.286
- 5) 杉森みど里 著, 「看護教育学 第3版 看護学の授業展開」医学書院, p.187, 2000
- 6) ウヴェ・フリック著, 小田博志他訳「質的研究入門」春秋社, 2003(1)
- 7) 深井喜代子編集, 「新体系看護学18基礎看護技術」メヂカルフレンド社, 2004